



優しい風の吹く街

ユニットF宝塚

第43号 2014年 秋号



8月12日台風11号被害視察
(武田尾)

夏から秋にかけて台風・集中豪雨が日本を襲い各地で大きな被害がでました。宝塚市においても、西谷地区等で大きな土砂崩れ被害がありました。被災された方々へお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧復興がなされますように今後とも全力でとりくんでまいります。改めて防災・減災活動の大切さと、安全安心のまちづくりの必要性を痛感しています。

活動報告～抜粋～

<7月>

- 7日 市民・弁護士のための国際人権講座
- 10日 臨時議会
- 11日 就職差別撤廃要請行動
- 12日 議会報告会
- 13日 第1回宝塚市議会意見交換会
- 18日 救助フェスティバル2014
- 21日 民主党女性議員ネットワーク会議(～22日)
- 23日 阪神政策研究会
- 25日 宝塚市自治功労者総会
- 30日 平和を願う市民のつどい

<8月>

- 3日 両性の自立と平等をめざす教育研究会(～4日)
- 7日 教育課程編成講座
- 21日 宝塚市子ども議会
- 23日 あかし教育フェスティバル
- 25日 宝塚支部教育研究集会
- 30日 宝塚市市民と教職員の会
- 31日 兵庫県民主教育政治連盟幹事会

<9月5日～10月9日 9月定例市議会>

7月31日～8月1日 文教生活常任委員会視察

●北海道石狩市

- ①石狩市手話基本条例について
- ②手話の普及啓発に関する取り組みについて

●札幌市

- ①子どもの最善の利益を実現するための権利条例について
- ②子どもの権利救済機関「子どもアシストセンター」について
- ③札幌市児童福祉総合センターについて



7月12日 議会報告会(御殿山会館)



7月13日 市民との「第1回意見交換会」

ユニットF宝塚



第31回「駅前議会」 8月12日

台風直撃の日となりましたが、阪急電車が動いていたため開催しました。少人数ながら皆様との円卓トークは充実した内容となりました。

1. 手塚マンガの力を活かしたい

手塚治虫記念館開館20周年記念事業と今後の運営は。

〈市長〉小中学生4コマ漫画コンテストや、花の道と宝塚大橋に足元サインでの誘導、記念企画展などを行った。今後も常に斬新な考えで新しい方策を展開する。

減少しつつある入館者数について、交通アクセスも含めどのような対応をしているのか。

〈市長〉海外からの集客に向け、訪日旅行会社への売り込みやグーグル歴史アーカイブへの参入など実施。漫画の力を活用した「まち」の活性化のため地元との連携交流を進めている。大型バスの駐車場不足は課題。

宝塚ガーデンフィールズ跡地・利活用にて、手塚治虫記念館の1階玄関が復活することになると思うが、そこに記念館と全く関係のないものをつくるのではなく、例えば、手塚治虫の幼少期に関連するものやミニ手塚ワールドなど、つながりのある場所になってほしい。

相互の財産価値を高める相乗効果を期待しているが見解を。

〈市長〉記念館と連携した手塚ワールドを広げ、世界の人々に夢を届ける大切なゾーンになるものと考えている。



手塚治虫や、手塚作品を学ぶことについて。郷土の偉人に学ぶことは重要。既に、本市小中学校の図書室には手塚作品が蔵書され、また副読本を教材に学ばれているところであるが、他市では手塚治虫の考え方や生き方について、手塚作品を中心に据えて、教室で深く学び、ゆかりの地の記念館にて、手塚治虫の世界を体験している学校がたくさんある。

世界に自慢できる素晴らしい宝物が身近にあることを、強く再認識するように。

〈教育長〉児童生徒は、命を大切にすることや、自然を敬うことを、手塚さんの作品に触れながら学んでいる。ふるさと宝塚を大切に思う心の育成につながるとともに、心豊かな人づくりにつながると考える。

団体客の増加をめざすうえで、大型バスの寄り付きエリアと駐車場の新設は、これからの記念館発展にとって必要不可欠。

文化創造館、花のみち・さくら橋公園との一体的な大きな視野で整備すべき。

〈副市長〉本市の観光・文化・商業の顔となるところである。記念館の隣接又はガーデンフィールズ跡地一帯のなかで回遊性をふくめ取り組みが必要。駐車施設が取れるように検討を開始した。

2. 「県立川西高等学校宝塚良元校」について

県立川西高等学校宝塚良元校は、1949年に県立尼崎高校の良元分校として開校。夜間定時制課程の高校として多くの勤労生徒を受け入れ、阪神間の教育を担ってきた。時代の変化とともに、定時制高校の役割やニーズは多様化し、勤労生徒のみならず、「不登校」の生徒、他校を中退し学び直す生徒、成人あるいは高齢の生徒、障がいのある生徒など、多様な生徒の学びの場となってきたといえる。社会格差が深刻化している今は、定時制を希望する生徒は、増えているのが現実である。

また、多くの外国籍生徒もこの学校で学んできた。さらに、小林駅に近く、交通の便利な場所であることは、西宮からの通学生徒も多く、職場から直接学校に駆けつけるという生活を続けるうえでの不可欠の要素であった。伊丹、西宮、尼崎、神戸等へ通わざるを得ない状況となり、学舎が遠退いたことは今後の大きな課題である。公立の定時制高校は教育界最後のセーフティネットと呼ばれ、社会全体で支える必要がある。今回、宝塚市内にあるこのような学校がなくなることは、本当に残念。行き場を失う子どもたちがでるのではないかと危惧している。

良元校廃校後の「夜間定時制高校」への進学希望生徒の進路については。



〈教育長〉夜間定時制高校への進学を希望する生徒の進学先は、県立阪神昆陽高校や西宮香風高校、神崎工業高校などである。

廃校後の施設を地域活性、地域福祉、社会教育等で活用することについては。

〈教育長〉外国籍の子どもたちが、母語や日本語、文化が学べる場、及び交流の場として活用してもらえるように県に要望している。

★北野意見★

伊丹・西宮・尼崎・神戸などへ通わざるをえない状況となり、学舎が遠のいたことは今後の大きな課題である。

3. 教育環境整備拡充を

SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）派遣の成果と今後について。子どもたちを、教育と福祉の連携で支援し「社会福祉の視点から改善する」ことで問題解決するSSWの働きについては、近年大きな注目を集めつつある。SSWをさらに拡充するための今後の展望は。

〈教育長〉2011年の導入時の3名から5名に、拠点校も9小学校に拡充。SSW参加の「校内支援委員会」で具体的な支援策を検討し、福祉機関につなぐこと等で早期対応を図っている。今後も一層の充実に努める。

学校の安全対策における「校門遠隔施錠システム」「防犯カメラ」「警備員配置」等の状況と、その検証について。

〈教育長〉防犯カメラは、侵入に対する心理的抑止力の効果を期待。警備員配置は不審者の事前排除に加え、万が一侵入が発生した後の犯罪阻止も期待できるが、大きなコストが必要となる。そのため児童在校中の防犯安全対策としての警備員配置については、今後遠隔施錠システムに代わるものとして検討していく。小学校の夜間利用の施錠について警備員対応も調整していく。

活動トピックス

8月19日 民主党地方自治体議員フォーラム
(滋賀県)



嘉田由紀子前知事と三日月大造知事を囲んで

9月16日 文教生活常任委員会

「請願38号：教育条件整備のための請願」の
口頭陳述。大先輩の加藤さんが来てくださり、
学校の現状をしっかりと訴えてくださいました。
寺本議員・となき議員・たぶち議員は紹介議員
として質疑に答えてくださいました。
(採択されました)



地元、良元小学校でのボランティア活動



5・6年生の着衣水泳



福島のお話（地域児童育成会）



小林駅前 朝のチラシ配布活動

～風のココロ～

「子ども・子育て新制度」の来年度スタート
にともなって、宝塚市の関連条例も改正されま
した。「保育の質」をしっかりと確保しつつ改革
が進むよう、さらなる子育て環境の充実をめざ
します。

◇発行人◇ 北野さと子

◇連絡先◇

〒665-0034 宝塚市小林2丁目 12-27-209

Tel&Fax 0797-73-4556

ホームページ <http://www.kitanosatoko.com/>